

単元の概要

本グループでは、これまでの「読むこと」の学習において、主に「正確に」「はっきりとした声で」表現する音読に取り組んできた。本単元において、詩の内容を理解し想像しながら、作品の特性を踏まえ、自らの音声を工夫して表現する「朗読」へと変えていった。読みの技能について理解を深めるとともに、「思考力、判断力、表現力等」を働かせて、一人一人の表現の違いがあることや、聞き手を意識して自分なりに表現を工夫し、言葉の響きやリズム感の良さに気付くことをねらいとした。

中学部国語Kグループについて

中学部1年から3年までの生徒の6人で構成された、学習習熟度別のグループで、特別支援学校学習指導要領中学部国語科の第1段階から第2段階相当の内容を学習している。

国語科の学習上のつまづき

- ・語彙が少ないことによる表現方法の偏り。
- ・言葉の理解が限定的(間違って解釈していることも)
- ・情報の捉え方が部分的で文章問題が苦手。
- ・言葉の持つイメージが、文字のみだと捉えづらい。
- ・順序立てて話すことが難しい。

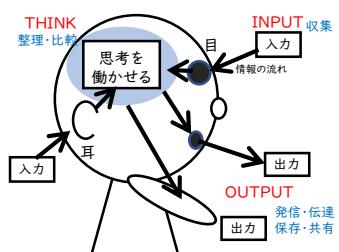
目指す資質・能力 ※本単元で最も重要視した目標は「思考力、判断力、表現力等」

知識及び技能: 文章の内容や意味を理解するとともに、朗読の技能を高めることができる。

思考力、判断力、表現力等: 文章から考えたことや思ったことを、表現を工夫して聞き手に伝えようとする。※

学びに向かう力、人間性等: 言葉の響きやリズムのよさに気付くとともに、よりよく朗読に取り組もうとする。

育成すべき情報活用能力



○どうしてそのような表現をするのか、自分の**表現の理由**を文章理解を通して**他者に伝える**ことができる。

○相手の表現とその理由を聞いて、自分の**表現方法に活かそう**とする。

本単元で主に取り扱った詩と選定理由

- 「春のうた」草野心平
- 「水のこころ」高田敏子
- 「おならうた」谷川俊太郎
- 「はやく」藤富保男
- 「もういいの」金子みすゞ

生徒の実態に応じて、一授業で取り扱える文章量と内容、4つの技法(正確さ、間、抑揚、緩急)に特化しているなど、単元の目標を達成できるように詩を選定した。

指導の実際

知識及び技能を高めるために

◇朗読の技法を4つ提示し、表現を工夫したい箇所に生徒自身で考えて色シールで貼り付ける。

正確さ
間
抑揚
緩急

「春のうた」草野心平

H君の色分けしたシート

H君の朗読

技法を色分けして、視覚的にも捉えやすくする

生徒同士で色分けしたシートを見比べ、表現の工夫の違いに気付くことができた。この色シールで技法を視覚化するアナログ的な手立ても、情報を整理し、表出することに有効であった。

◇言語を動作化して意味理解の促進につなげる。

「水のこころ」高田敏子

実際に水を用意して、「つかむ」「すくう」などをやってみる

動作化後、色シールを貼り全員シートを映して表現方法を見比べる

動作化したことで、水の特徴を確認できたが、詩の文末にある「人のこころ」につなげる発問が足りなかった。また、水が冷たく、生徒によってはその冷たさにも印象に残ってしまった。その時季に応じた水温にする必要があった。

思考力、判断力、表現力等を働かせるために

◇登場人物の気持ちに立って表現する。

「はやく」藤富保男

生徒の日常生活も引き合いに出して発問する

誰が言ってるの?
どんな気持ち?

ペアになって読み合う

生徒の日常生活を振り返り、自分の経験から感じた気持ちを込めて表現する様子も見られた。また、詩の特徴を捉えて表現技法の「緩急」の「急」を意識して読むことができていた。

◇文章の意味を捉え、同じセリフでも表現方法を変えなければならないことに気付く。

「もういいの」金子みすゞ

連ごとに誰のセリフなのかを問う

セリフを抜き出す

何が「もういいの」なのか?
何が「まあだだよ」なのか?
繰り返し生徒に問いかけていく。

Nさんの朗読

難しい内容の詩ではあったが、イラスト提示や書き込みを通して連ごとのセリフを言ったのが誰なのかの理解につなげることができた。また、連ごとの情報を整理して、各セリフの表現を変えて読む様子が見られた。「何が?」「どうして?」などという問いが生徒の思考を促すきっかけになった。

ICT活用のねらいと方法(ロイロノートを使用)

◇詩の意味を視覚的に捉えられるようにする。

授業前

授業後

詩の内容を表す画像をWeb検索しながら、文章の中に貼り付けていく。

◇自分の朗読を客観的に捉えたり、友達の朗読の表現方法の良さなどに気付いたりしてよりよい表現を追求できるようにする。

録音機能

録音した朗読を授業の中で全員で聞き合い、自分の表現方法を振り返るようにする。また、なぜその表現をしたのか理由を述べるようにして、互いの表現方法の違いや良さに気付くことができるようにする。

学習状況の評価

- 単元が進むにつれて、朗読に変化が出てきており、**生徒自身で考えながら**表現を工夫する姿があった。
- お互いの朗読を聞き合うことにより、**リフレクションが促され**、よりよい表現をしようとする様子があった。
- △詩によっては、内容の理解まで至らず、自分なりの解釈で表現することがあった。

指導の評価

- ロイロノートを活用して詩の**意味理解に効果的**につなげることができた。
- 単元当初に知識・技能を意識した授業を展開したことにより、後半から**思考力を働かせて**表現することをねらうことができた。
- △生徒は表現を工夫していたが、表現の理由をその場で語るには難しい様子があり、表に整理させるなどの手立てが必要であった。

他4名の朗読

M君の朗読

K君の朗読

Tさんの朗読

T君の朗読

※公開: 令和3年3月末まで

全体考察

- ◇各家庭のICT環境に差があっても、「録音」して「提出」する操作は携帯電話(スマートフォン)等でも容易にでき、**家庭学習の充実**も図られるのではないかと。
- ◇デジタルのみならず、色シールを貼り付ける**アナログによるアプローチ**も有効であり、授業づくりを行う際には多面的な視野に立って手立てを考える必要がある。
- ◇この授業での**問いを明確に持つ**ことが、教科の本質につながる一歩ではないかと考える。
- ◇生徒一人一台端末の環境が整えば、生徒同士で情報を共有し、学習状況や自己の表現の振り返り、そしてより細かな表現方法の工夫などにつながるのではないかと。

◇授業での学習履歴を家庭学習(宿題)と共有する。



授業後のノートを送り、家庭で振り返ることができるようにする。また、家庭で録音機能を使って朗読したデータを教師に送るようにし、学習状況の把握と次時の授業づくりに活かす。

◇言葉の意味を整理させたり比較させたりして、詩の内容理解を促す。

書き込み機能

ピンチアウト

詩の中で注視してほしい箇所をマーカーで色付けしたり、ピンチアウト操作で画面を拡大して情報量を調整したりする。